

下水道事業について

事業名	南大阪湾岸流域関連公共下水道 北部処理区			
下水道排除方式	分流式（一部合流式を含む）			
供用開始年月日	平成2年2月1日			
法適・非適用の区分	法適用企業【一部適用】 （令和2年4月1日より）		汚水処理水量	6,449km ³
			現在処理人口	52,681人
整備面積（ha）	汚水	600	雨水	455
	合流	45	汚水	122
管渠延長（km）	雨水	76		

下水道施設の現況

表 各ポンプ場施設の主要な施設・建物・設備の状況

ポンプ場施設	項目	設置年	標準耐用年数	
羽衣ポンプ場	躯体	沈砂池、ポンプ棟等	1983～1984	50
	設備	スクリーンかす設備（汚水・雨水）	1985～2005	15
		汚水沈砂池設備	1985～2010	15
		雨水沈砂池設備	1985～2011	20
		汚水ポンプ設備	1985～1999	15
		雨水ポンプ設備	1984～1998	20
		ゲート設備	1984～1985	15
		脱臭設備	1985	10
		クレーン物あげ設備	1985	20
		ポンプ類	1984	10
高石ポンプ場	躯体	沈砂池、ポンプ棟等	1969～2011	50
	設備	スクリーンかす設備（汚水・雨水）	1987～2013	15
		汚水沈砂池設備	1987～2000	15
		雨水沈砂池設備	1992～2013	20
		汚水ポンプ設備	1984	15
		雨水ポンプ設備	1972～1996	20
		高速ろ過設備	2004～2013	15
		消毒設備	1989	10
		雨水・滞水調整池設備	1975～2014	20
		クレーン物あげ設備	2012	20
ポンプ類	1996	10		
高師浜中継ポンプ場	躯体	ポンプ棟	1993	50
	設備	ゲート設備	1993	15
		スクリーンかす設備	1993	15
		汚水ポンプ設備	1993～2013	15
		用水設備	1993	15
		脱臭設備	1993	10
クレーン物あげ設備	1993	20		

：標準耐用年数を超過している項目

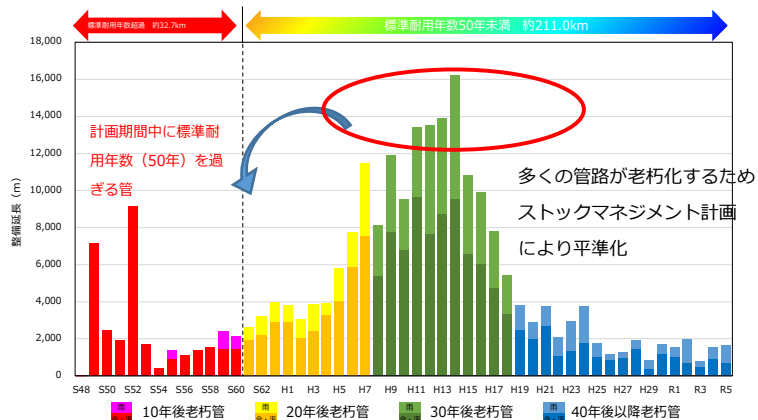


図 布設年度別老朽管延長

◆ポンプ場施設

現況では、左表のとおりポンプ場施設において老朽化（標準耐用年数を超過）している躯体・設備が多く、改築更新を実施する必要があります。

◆管路施設

現況では老朽化した管路が年々増加しており、計画期間以降も標準耐用年数を過ぎる管路が多くあります。今後も適切に事業費を平準化し改築更新を実施する必要があります。

投資目標

表 投資目標

項目	投資方針	現状（R7）	目標（R17）	備考
老朽化改築更新	羽衣ポンプ場	健全度、維持管理者ヒアリング、他事業との整合性などを考慮し、修繕改築の優先順位を設定し順次対応していきます。	健全度2.0以下を対策必要施設として設定し優先順位に従って実施を行います。	ストックマネジメント計画より
	高石ポンプ場			
	高師浜中継ポンプ場			
管路整備	管路	本市ではすでに整備率が高い状況です。残整備箇所は私道が多いため整備に時間を要しています。そのため目標として年あたり0.5haの整備を目指します。	整備済面積 600.0ha	整備済面積 605.0ha
	雨水	未整備の箇所も多く、脆弱な箇所を優先して整備を行います。	整備済面積 454.6ha	整備済面積 460.0ha

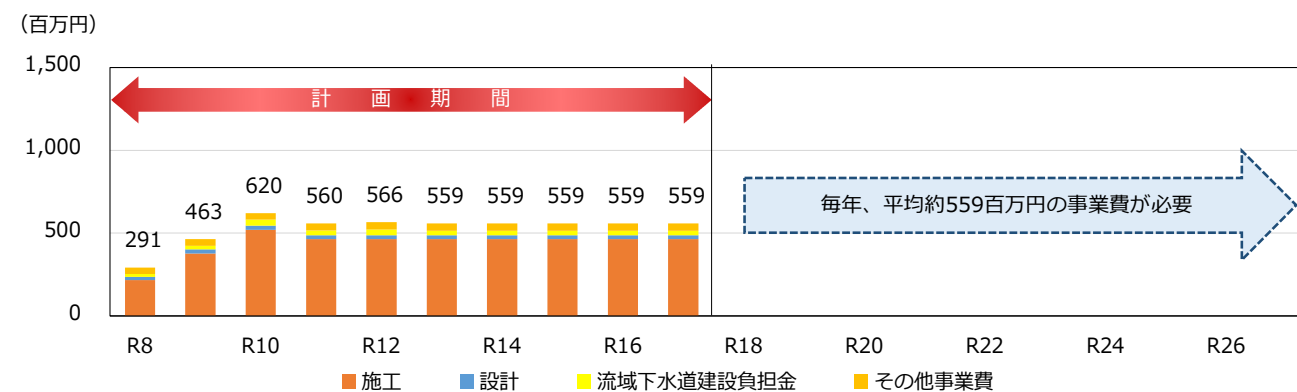


図 事業費の予測

水洗化人口及び使用料収入の予測

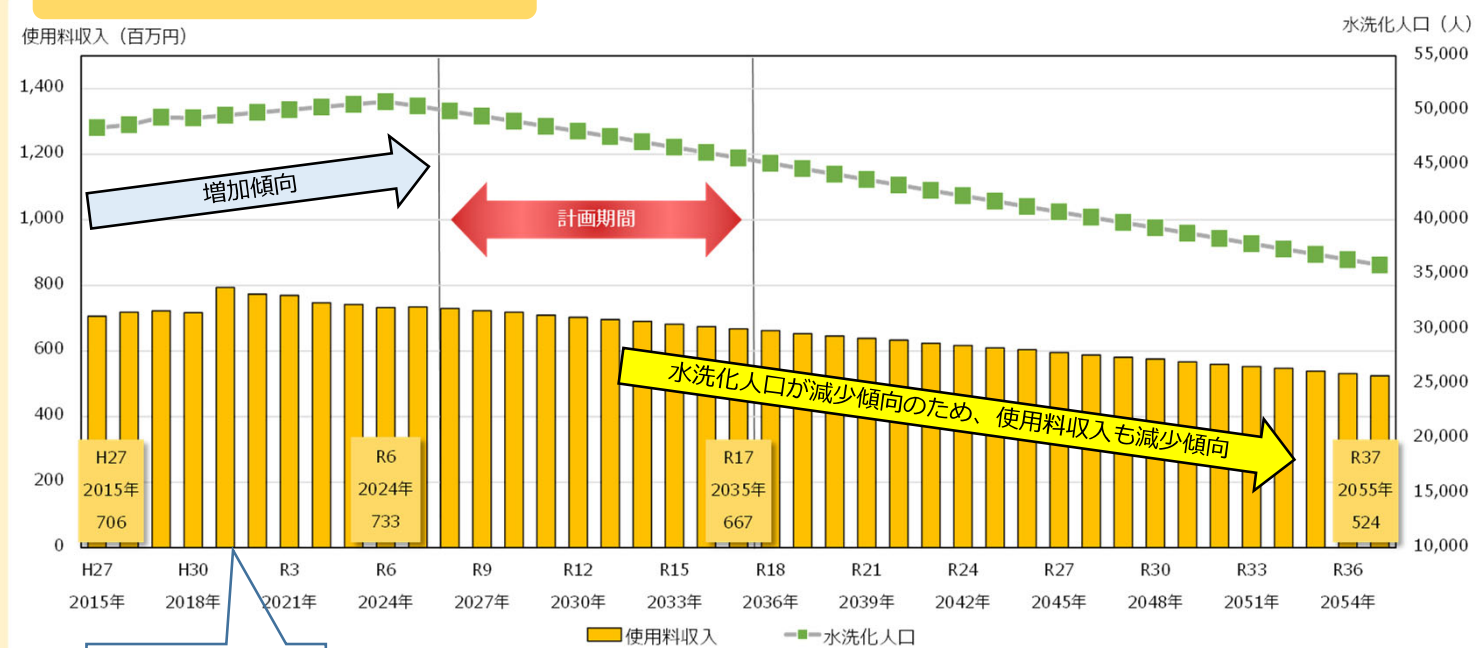


図 使用料収入の予測

投資財政計画

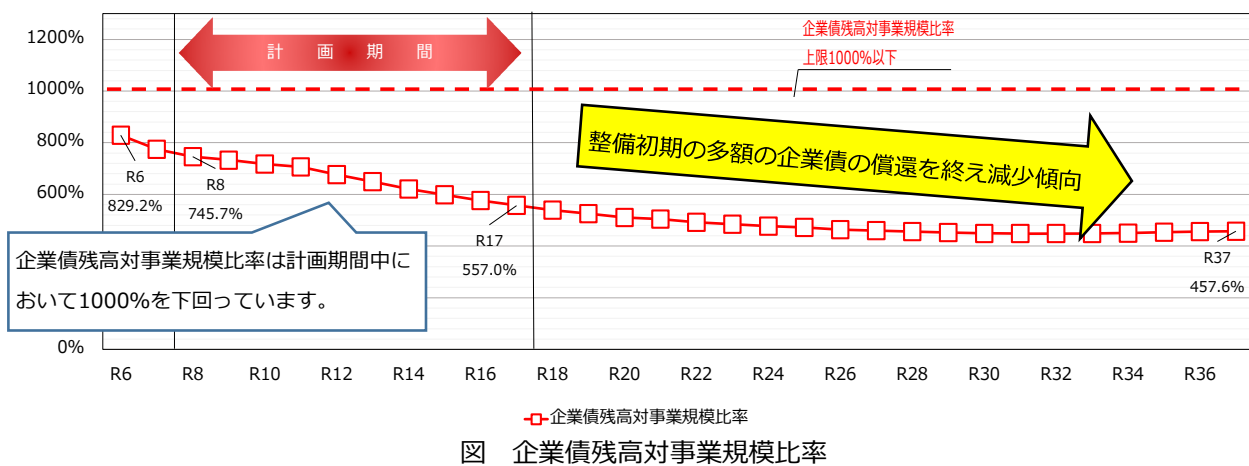
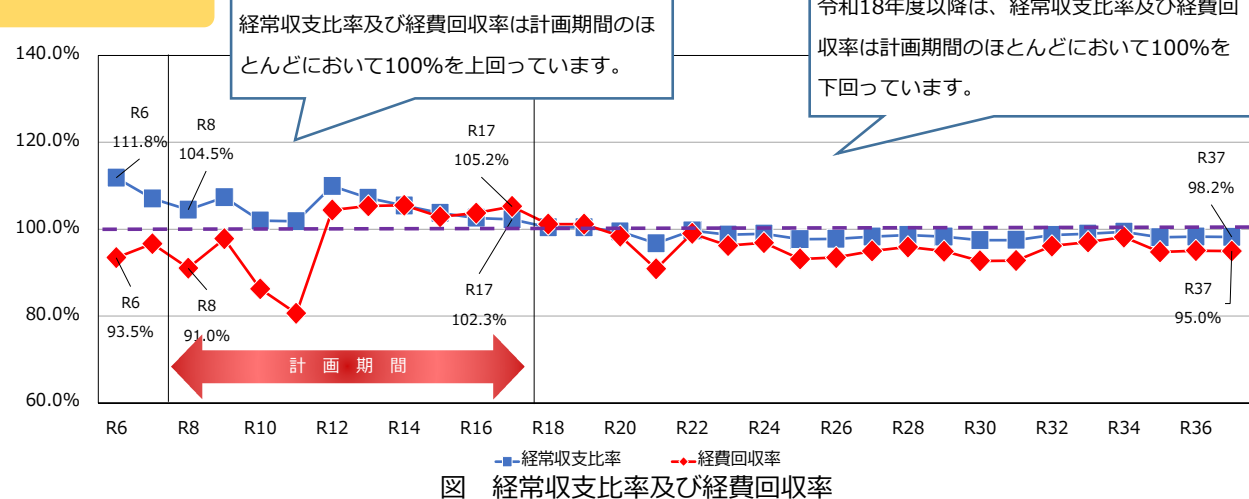
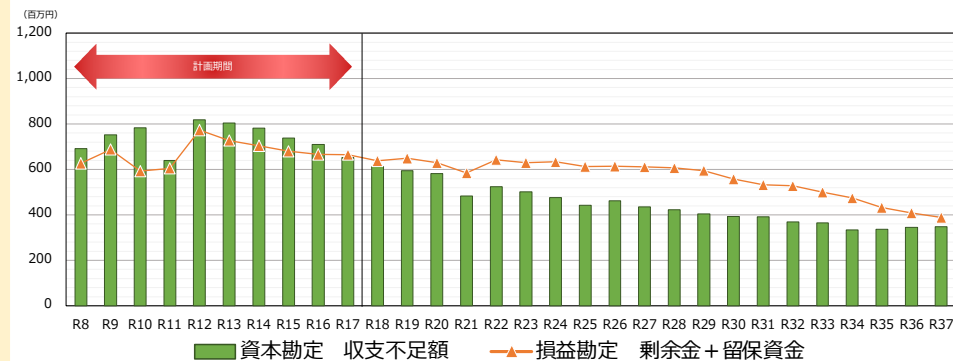


表 財源目標及び達成状況

項目	目標	現状 R6 (2024)	計画 R17 (2035)	評価	(参考) R37 (2055)	評価
経常収支比率	100%以上	111.8%	102.3%	○	98.2%	×
企業債残高対事業規模比率	1000%以下	829.2%	557.0%	○	457.6%	○
経費回収率	100%以上	93.5%	105.2%	△	95.0%	×



計画期間においては、概ね財源目標を達成。20年後は、経常収支比率及び経費回収率は未達成

計画期間内の経常収支比率は100%を超えており損益勘定では収益が出るものの、資本勘定ではこの収益を超える不足が発生します。

計画においては、各指標の目標値は達成するものの、資金不足となり厳しい経営状況。

今後の取り組み

経営改善のため、以下の項目について取り組み、PDCAサイクルにより経営戦略を推進します。

表 経費回収率向上のロードマップ

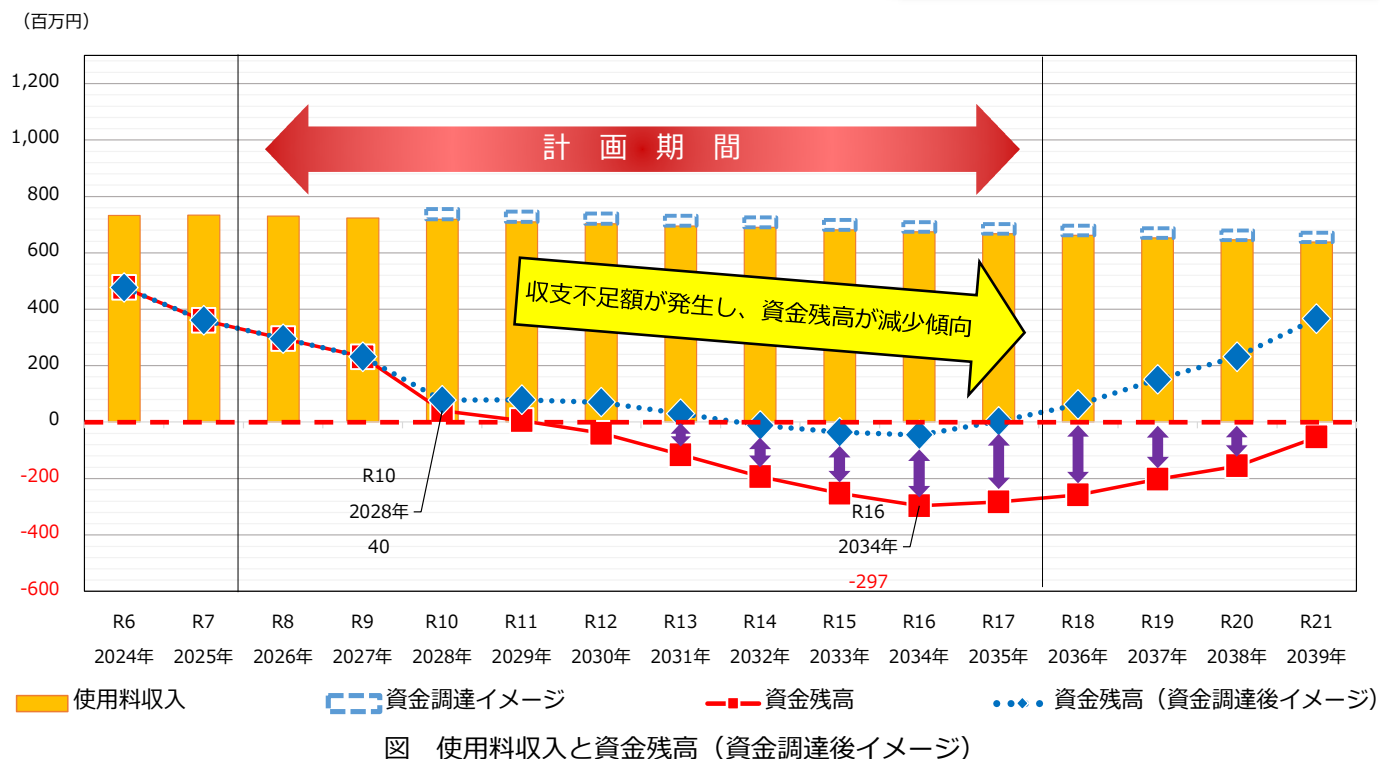
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
経営戦略 計画期間		→									
経営戦略見直し タイミング					○				○		
ロードマップ の見直し					○				○		
使用料改定の 必要性検討											→
使用料 改定の検討											→
WPPPの検討											→
SM計画	第1期	→									

適切な事業投資
ストックマネジメント計画の定期的な見直し
下水道整備

事務事業の見直し
民間活力の活用
維持管理の効率化
広域化・共同化・最適化について

財源について
水洗化普及による使用料収入の確保
資金調達（使用料改定や長期借入など）

資本勘定の収支不足を補うための内部留保資金が減少し、令和12年度以降には資金に不足が生じます。資金不足解消のため財源の確保が必要です。



安定した下水道サービスと経営の健全性の向上のため、これまで以上の経営の効率化と経費削減、財源の確保が必要です。前回の使用料改定から7年経過していることから、下水道使用者の負担に配慮しつつ、適正な料金体系及び水準について検討します。